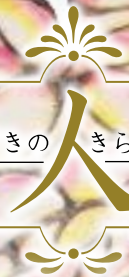


☆☆ おまえぎの ☆☆ きらり輝く人 ☆☆



ハワイアンペイントの第一人者

「つながる」ことの大切さを作品に込める

# 木下 智美 さん



## PROFILE

きのした ともみ (西側区)

家族や仕事、自然を愛するクラフトマスター。清水区出身。仕事と家庭を両立させ、時間を見つけては親子3人でサーフィンを楽しむ。ウッドバーニングという技法を駆使してハワイアンなデザインを描く。元大工の父親が作品の額縁を作製。共同作業で作品をつくり上げている。



ウッドバーニング(木材などに絵や文字、柄をつける)という技法を用いてハワイアンなモチーフを描く「ハワイアンペイント」の第一人者である木下智美さん。ここ御前崎でアロハスピリッツを込めた作品を生み出し続ける木下さんに、アーティストになったきっかけや人生観について話を聞いた。

### 仕事と家族が「つながる」

父親が大工をしていたと話す木下さん。「幼い頃から父のことが大好きで、いつか一緒に仕事をしたいと考えていました。でも、気が付いたら静岡市などの大型百貨店で働いていたんですよ」と笑った。「緊張感があり、充実した毎日でした。でも、趣味のボディボードを思いきりやりたかったことや結婚のタイミングでもあったことから、ここ御前崎に移住することを決めました。そのうち地元に戻るつもりだったんですけどね。まちな人たちも本場に親切にしてくれたので戻れなくなりまして。このまちに来て20年が経ちましたよ」とほほえんだ。あるとき、自分にできるこ

とは、何でもやってみたいとなったと話す木下さん。もともと絵を描くことが好きだったことから、子どもが生まれる前にきちんと絵を習いたくなっていたという。「絵を学ぶ中で、ウッドバーニングと出会いました。結婚式場内に飾るため、絵画にハワイアンなデザインをしているとき、レイ(頭・首・肩などにかける装飾品)に『いろいろなものをつなぐ』という意味があることを知りました。ウッドバーニングで木に絵を描けば父と一緒に仕事ができる。家族がつながれる。自分の価値観と仕事の方向性が一致した瞬間でした。それからは、額縁の作製を父に頼んでいます。自分と父のような親子のつながりを、作品を通じて広く伝えていきたいと考えています」

### 大切なことを伝えたい

これからも、自然や人が豊かな御前崎から「いろいろなものをつなげること」の大切さを発信していきたいと話す木下さん。

彼女の作品の中に、より良い人生を送るためのヒントがあるかもしれない。